

小さな町の大きな挑戦!! 市民がつくった電力会社

映画 「シェーナウの思い」 上映会 &

上田市民エネルギー 《相乗りくんプラス》 発表会
シェーナウの草の根エネルギー革命
～ 自然エネルギー社会を子どもたちへ ～

この映画は、ドイツ南西部、黒い森のなかにある小さなまちシェーナウ市の住民グループが、チェルノブイリ原発事故をきっかけに「自然エネルギー社会を子どもたちに」という思いから、ドイツ史上初の「市民の市民による市民のための電力供給会社」を誕生させるまでの軌跡を綴るドキュメンタリーです。

上映時間 60分 2008年ドイツ製作 翻訳：及川斉志(2012年)



★日時： 3月15日(金)
昼の部：13:30～15:00
夜の部：19:00～20:30

★会場：上田市中央公民館 2階 第1会議室

※入場無料

主催：蚕都くらぶ・ま～ゆ
共催：上田市民エネルギー
問合せ先：☎0268)27-3186(安井)

<ストーリー>

ドイツ南西部にあるシェーナウ市。2500人の小さなまち。チェルノブイリ原発事故の影響は、ここシェーナウ市にもおよびました。そこでシェーナウ市の親たち数人が子どもたちを守るため「原子力のない未来のための親の会」(親の会)を結成しました。

まず始めたのが、街中に放射能から身を守るための情報を発信する情報スタンドを設置することでした。また原発依存から脱却するためには、エネルギー使用の意識変化も重要であると考え「節電キャンペーン」や「節電コンテスト」を行いました。

さらに住民グループは、シェーナウ市と独占的に契約を結んでいたラインフェルデン電力会社(KWR)に対し、原発に頼らない電力供給、エコ電力の買い取り価格の引き上げ、そして節電を促すために基本料金を引き下げ使用料金を引き上げる比例料金制度を提案しますが、冷たくあしらわれてしまいます。

そこで住民グループは「それなら自分たちで電力会社をつくってしまおう!」と立ち上がり、シェーナウ電力会社(EWS: Elektrizitätswerke Schönau)を発足させます。

* 後略

(出典：自然エネルギー社会をめざすネットワーク)